

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373001128		
法人名	医療法人 豊成会		
事業所名	どんぐりの家		
所在地	愛知県豊田市青木町5-88		
自己評価作成日	平成29年 9月26日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&amp;JiyosyoCd=2373001128-004PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&amp;JiyosyoCd=2373001128-004PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年10月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所の目の前には広々とした公園があり、事業所のリビングから公園が一望できるため、季節の移り変わりを感じることができ、地域のお祭りや運動会にも参加しやすい非常に良い環境にあります。法人の「豊成会に関わるすべての人が豊かに成る」という理念の下、利用者さんだけでなく、ご家族、地域の方々、職員全てが豊かであるように日々様々な交流を行っております。同法人の老人保健施設との連携が密になり、利用者さんの状態に合わせて老人保健施設の方が合っている場合は移動を勧め、老人保健施設からGH利用のほうが向いている入所者がいれば受け入れるなど、相互協力が出来るようになりました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人の『豊成会に関わるすべての人が豊かに成る』と言う理念の下、利用者・家族・職員だけでなく、地域の方々を含めてすべての人が豊かであるように日々交流を行っている。地域が、ホームを一般家庭と同じ1軒の家庭と促え、親しく近所付き合いをしている。ホームが支えられるばかりでなく、職員が地域の防災訓練で車椅子の操作の指導を行ったり、公園の掃除をしたり、地域の方々が相談に訪れたりと、地域に貢献する活動を行っている  
以前はホーム内で全てを解決してきたが、利用者の状態に合わせて同法人の老健施設と連携し、骨折等してリハビリが必要となれば利用者の状態に合わせて老健施設に移動したり、老健施設の利用者でグループホーム利用が最適であれば受け入れる等の相互協力を行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	豊成会に関わる全ての人々が豊かに成るという理念を新たに入った職員全員に伝えて、その理念を皆で共有して日々のケアとご家族、地域との交流を心がけている	法人理念『豊成会に関わる全ての人々が豊になる』を基に、年初に個人目標を立てている。管理者が確認し、理念よりぶれている場合は理念に沿った目標になる様に指導している。職員の理念の周知は十分である。	職員の目標を内に秘めるに留めず、掲示板等で公表し、個々の職員が目標に向かって頑張っている姿を家族を含めた周囲の方々が温かく見守る事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、事業所の行事に地域の方にもご協力いただくなどといった交流が継続して行われている	町内会はホームを一般家庭と同じ一軒の家庭として促え、近所付き合いをしている。地域行事として花見・盆踊り・席を設けての運動会・秋祭り等に参加し、同法人の老健の三味線・琴演奏会にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して地域の方で認知症で困っている方や相談したい方がいないか呼びかけを行っている。幸いにも現時点では地域に認知症で困っている方はおらず、相談等は受けていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に現在の事業所の状況を細かく伝えており、地域の方からいただいた意見に対しては、事業所運営に積極的に取り入れサービス向上につなげている	現職だけでなく、歴代の運営推進会議メンバーが継続して会議に出席し、区長が交代しても地域との繋がりが継続している。参加者の都合に合わせて開催日程を調整しており、地域代表の出席率が非常に高い。	メンバーにホーム運営に長けている知見者(他のホームの管理者等)の参加により、話題が広まって参加者より活発な意見の出る会議運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員の方等に地域との交流の様子や、事業所や利用者さんの状況を紙面だけでなく口頭でも細かく伝え、助言があれば各職員に傳達してケアサービスに生かしている	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、介護相談員の受け入れもあって、ホームや利用者の状況・地域交流の様子は市役所窓口伝えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止行為については全職員が十分理解しており、身体拘束は行っていない。施錠に関しては、昨年、利用者が窓から離脱したことをきっかけに、玄関だけでなく窓も施錠し離脱に注意していたが、現在は落ち着いてきているため施錠しない時間を増やすようにしている。	職員は身体拘束の弊害を十分理解しており、拘束のない支援を実践している。離接常習の利用者がいた一時期、玄関・窓を施錠して離接防止をしていた。その利用者が退居し、全体が落ち着いているので、現在は見守りが手薄な時のみの施錠となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同が寄り添うケアの重要性を理解している。虐待の意味の無さ、逆効果を職員全員が充分理解しており、虐待などは一切行われていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度についての研修に参加し、全職員に対し報告を行ったが、最近では機会が無かったため、機会があれば再度学びたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に場を設けて説明会を開いて納得していただいたうえ、文書による通知を行うことで特に問題なくご理解いただけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会来られた時など、意見や要望があれば随時話を伺い、関係者と話し合ったり、事業所運営に取り込めそうなことがあれば検討して積極的に反映できるよう努力している	日常の来訪、運営推進会議、家族会、各種行事等、家族の足を運ぶ機会が多く、家族との繋がりは密である。家族アンケートに『何時も親切に相談に乗って頂き、穏やかに楽しく生活している』等、全幅の信頼がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の本部長は週1~2回は来訪し、各職員との面談や普段の様子も把握されている。そのため、こちらの意見や提案を言う機会が増えており、事業所運営にも反映されやすくなっている	日頃から管理者と職員は連携を密にし、何時でも意見が言える環境にある。毎月のミーティングは、問題点・改善が中心の会議である。職員の提案で机・イスを『応接タイプから介護タイプ』に変更した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部長との個人面談も増え、運営状況の報告を受けたり、こちらの意見や提案を言うことが出来る機会が増えた。また、人事考課を取り入れ優秀者には表彰する機会もできたため、職員のやる気向上にも繋がっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社したばかりの職員にいきなり仕事を任せるとは無く、最低3ヶ月は試用期間を設け必ずベテランの職員が付き、指導を行っている。また、研修にも優先的に参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区のグループホームが集まる研修に参加する機会があり、情報交換を行い、お互いに良いところを取り入れあうことが出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と直接お会いして面談を行い、細かく要望等を聞くとともに、家族からも情報をいただき、体調、精神状況を見逃さないよう細やかな視点にたち、情報を職員全員のものにして、日々の支援へとつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者さんと同じように、ご家族ともしっかりと話し合いを行い、何を望んでいるかを把握し、ケアに生かせるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記のようにしっかりと話し合いを行いアセスメントをすること、又、本人のその時々様子から、本人の一番必要としているケアを導き出し、サービスの提供を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんが出来ること、出来ないことを把握し出来ることであれば、時間がかかるとしても職員が必要以上に手を出すようなことはせずに、一緒になって行動するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんにとってのご家族の存在の大切さを伝え、職員だけでなくご家族も一緒になって利用者さんを支えられるような関係を作っている。その結果、外出時などご家族も一緒に参加する機会が増えてきている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居期間が長くなったり、相互の加齢に伴い、馴染みの人との交流は難しい方もでてきているが、ご家族のお力添えもいただき、なじみの場所に出かけたりするなどの機会をなるべく設けている	昔からの友人や同級生の来訪があるが、加齢により馴染みの人の来訪は少なくなった。年賀状・暑中見舞いを出し、馴染みの関係を継続している。野球好きな利用者を、高校野球の観戦に連れて行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のレベルや相性を把握し、孤立したりストレスに感じる事が無いよう、リビングや居室をを変えたり、職員が間に入るといった支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんが退居されたあとも、ご家族と現在の状況を伝えあったり、事業所に顔を出してくださるといった良好な関係があり、必要があれば相談などの支援も行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんご本人と話をする機会を設け、なにを望んでいるか情報収集を行っている。コミュニケーションが難しい場合は、何度も話をする機会を設けたり、ご家族と話をして過去の経歴等から情報を得ている	市のコンサートホールにパイプオルガン設置の際、尽力した利用者により市よりコンサートへの招待があり、家族に相談して利用者・家族・職員で参加した。当時部下であった現市長に挨拶の機会があり、非常に喜ばれた。	利用者に輝いていた時代を思い出させるインパクト(当時のアルバム・新聞・雑誌・ポスター・スターの写真等)を積極的に提示し、思いを引き出す誘い水になる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、入居前に利用していた施設や病院などから情報を集め、サービスの提供に生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの話だけでなく、入居された利用者さんのその時々の変化をとらえ、その方のペースをよく観察した現状を把握することに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員による毎月のアセスメント作成やケアプランのモニタリング等の情報を元についてサービス担当者会議を行っている。わかる方にはご本人へ、そしてご家族にも意見をいただきプラン作成に反映している	毎月のミーティングで職員同士のモニタリングを行っている。家族にも意見を定期的にもらい、介護計画に反映させている。その結果、家族アンケートの『介護計画説明』の項では回答者全員が満足と答えている。	利用者のその人らしさ(個別ケア)の感じられる内容を盛り込み、手の届く具体的な短期目標にして、利用者・家族・職員が共に達成感を味わえる介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを複数台導入することで、記録の効率化を図り、職員間での情報の共有化にも活用することが出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況や要望に沿って、今までやったことがない事例だからとあきらめず、全職員で相談し合い、先を見越したより良いケアが出来るように努めている。必要であればご家族の協力も仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域の民生委員の方や包括支援センターの職員の方等と協力関係を築いて利用者さんやご家族の要望を取り入れた支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人のDrが訪問診療を行っているため、細かな連携も取れており、今の利用者さんに合った医療が受けられる環境ができています。様子がおかしい場合はすぐに紹介状を書いていただき、協力医療機関を受診することで安全面の配慮もできています	利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。看護師の勤務が週2回に増え、利用者の体調管理・処置法の指導等で業務改善に繋がっている。家族アンケートの『健康面』では、回答者全員が満足と答えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんについて気付いたことや変わったことがあれば看護師に細かく伝えている。また、看護師からは医療の面でのアドバイスをもらいケアに生かしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーでの情報提供だけでなく、必要があれば電話や直接出向くなどして細やかな情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的な医療が必要になった場合や、緊急時の延命治療についてご家族の要望を伺ったり、今後のケアの方向性について、Drを交えて相談し、アドバイスをを行っている	食事が経口摂取でき、医療行為が発生しない限り最期迄ホームで対応する方針である。その時が来たら主治医が家族と面談し、『医師・看護師が常駐していないリスク』を説明した上で、法人内の老健施設とも調整して最適環境を提供する考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員ではないものの消防署で開催される救命講習に参加する機会を設け、その内容を他職員に伝えることで、職員全員のスキルアップにつなげている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、防災の日を設け全職員が災害時の対応が出来るよう訓練を実施している。また、春と秋には消防隊員の方と地域の関係者の方々を招いて合同で避難訓練を実施している	毎月第3木曜日を『防災の日』と定め、全職員が災害時の対応が出来る様に訓練している。消防署・地域と協力して、年2回避難訓練を行なっている。地域の防災訓練では、地域の方に『車椅子』の指導を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が気楽な声かけのなかでも、利用者さんの尊厳を傷つけないよう細やかな配慮や対応を心がけている。相談員の方からも、職員の皆さんが利用者さんの尊厳を守る声かけをされているのがすばらしい、と言っていたこともあった	利用者に対して、丁寧な言葉遣いを心がけている。個人情報を出さないように書面で徹底し、利用者の事は利用者の前では話さない事にしている。利用者が不快にならないよう、ミーティングで話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんと関わる時間を増やし、会話内容やご本人の表情から思いや希望を読み取り、全職員が本人中心の支援ができるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番や時間などある程度のスケジュールはあるが、食事を食べたくない方には食べたくなくなるまで待つといったその人のペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを気にする利用者さんにはご家族協力のもと化粧品を用意したり、好みの服があれば職員と一緒に買いに行くといった支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が委託になったため、利用者さんの好みを叶えるのは難しくなった代わりに、おやつや飲み物を選択式にして自分の好きなものを選んでもらっている。委託になった分時間に余裕もできたため、皆で準備や片づけをすることもできるようになってきた	職員は、食事場面が利用者の力量が発揮できる場であることを理解している。利用者の『力量・希望』で、下ごしらえ、盛り付け、食器拭き等の手伝いがあり、職員も同じテーブルに付いて楽しい環境作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が食べられない方には、食事とは別に高カロリー栄養剤を摂取してもらうといった方法で栄養バランスには気をつけている。また、水分でむせ込んでしまう方には、トロミを付けて提供するなどの工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがい等と、その方一人一人の能力に合わせた口腔ケアを行っているが、口腔ケア理解されず、拒否がみられる方には時間を空けるなどの対応を行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんそれぞれの排泄タイミングを記録し、それに合わせた声かけ誘導を行っている。また、本人の気持ちを大切にパンツやパット等の使用方法を心がけている	トイレでの排泄を基本とし、チェック表に基づき排泄パターンを把握して利用者一人ひとりに合わせた誘導を行っている。仕草・動きを察知して声掛け・誘導を行い、行きたくなくても手引き誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維がとれるようおやつに果物をだしたり、水分を補ったり、運動を取り入れたりしている。頑固な便秘の方には、法人Drに相談して利用者さんにあった薬の処方をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入るメンバーや時間は決まっているものの、入浴を嫌がる方には順番を変えて気分が変わるのを待ったり、入浴日自体を他利用者さんと入れ替えるといった支援を行っている	入浴は週2回で時間も概ね決まっているが、極力利用者の希望に添うように配慮している。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、気長に声かけを行っている。柚子湯・菖蒲湯等、季節感を楽しむ工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースでゆっくり出来る場所を確保すると共に、疲れた表情をされているときにはこちらから声かけし休んでいただくような支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さんごとに服用している薬の効果や副作用の書かれている用紙をファイルしつつでも見れるようにしており、服薬介助は常勤職員のみで行うことを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人との交流が好きで責任感がある利用者さんには代表で挨拶をお願いしたり、家事で人の役に立ちたいと思っている方には無理のない範囲で手伝ってもらおうといったその人にあった支援を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さんの好きな時に外出するというのは難しいものの、散歩や買い物などの外出の機会は増えており、自治区の手芸クラブに参加したり、ご家族と一緒にコンサートに出かけるといった機会もある	日常的に散歩・買物・喫茶店・神社・弘法さんに出かけ、重度の利用者も車椅子で出かけている。季節を感じる花見(桜・紫陽花等)に出かけたり、マイクロバスで地鎮祭に出かけ、地域行事(花見・盆踊り・敬老会・運動会等)にも積極的に参加している。	訪問当日、勤務している職員に余裕があった割に、目的もなく着座している利用者が多かった。その日の天候、出勤職員に合わせたレクリエーションの柔軟な対応を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんが自分でお金を所持し管理することは現状難しいので、事業所で管理し、必要に応じて職員と一緒に使うといった機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したいと言われる利用者さんがいれば必要に応じて電話を取り次ぎ、手紙を書ける方には職員支援のもと、ハガキ等を書いていただきご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんがわかりやすいよう居室やトイレには張り紙がしてあり混乱がないようにしている。また、花なども飾ってあり季節感を出しているが、それが元で混乱するような方であれば撤去するなどして対応している	大きなガラス戸や天窓があり、採光が良く暖かなリビングである。中央にカウンター式キッチンがあり、死角がなく会話や見守りがし易い。壁には多くの写真が掲示されており、利用者が参加した行事のスナップや日常の様子が紹介されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は利用者さんのレベルや相性を考えて決めている。また、一人になりたい方には居室やフロアにあるソファなどで自由に出来るよう居場所を用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた馴染みの物品や好みの品などあれば、入居時だけでなく、利用者さんの希望があればご家族に相談して用意していただくといった環境作りをしていが、それが元で混乱が見られる場合は撤去も行っている	各居室には、2部屋つなぎに1ヶ所のトイレが設けられ、利用者の排泄支援には大きな手助けになっている。居室に合わせた豪華なカーテン・大型机・収納筆筒が設置され、重厚な雰囲気醸しだしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計ではあるが、利用者さんの状態に合わせて手すりを設置したり、床に転倒防止のマットを引いたりといった環境作りを行っている		